

K&W

第61号

神奈川と溶接

 一般社団法人
神奈川県溶接協会

 〒210-0001 川崎市川崎区本町2-11-19
 TEL 044-233-8367 fax 044-246-5265
 E-mail:wes-kana@aiores.ocn.ne.jp
 web:http://www.jwes-kanagawa.jp

 2019年度神奈川県溶接技術コンクール入賞選手
 山崎課長 平野会長 岸本審査委員長

一般社団法人神奈川県溶接協会 会長就任にあたって

一般社団法人神奈川県溶接協会 会長 平野 隆

新しく迎えた令和元年から、神奈川県溶接協会会長を拝命した平野隆です。

歴史ある神奈川県溶接協会の会長ということで、その責務の大きさを感じています。

本協会の活動の目的は、溶接・接合に関する技術・技能の向上と教育の普及、そして、会員の皆様相互の交流の場を提供させて頂き、溶接を通じて地域産業のより一層の発展に寄与することです。ここでは、皆さまにも参加頂いている「神奈川県溶接技術コンクール」、「神奈川県高校生溶接コンクール」「講演会・見学会」の最近の動向について紹介します。

「溶接技術コンクール」では、来年の全国溶接競技会の競技課題変更に合わせて、来年の「神奈川県溶接コンクール」で課題を変更します。中板では溶接姿勢が横向きに変更になるとともに、邪魔板の取付位置が裏曲げ試験片の位置に変更になります。薄板では溶接姿勢が立向上進に変更になるとともに、邪魔板が追加されます。課題が難しい方向に変更になりますが、この変更は参加者にとってはチャンスでもあります。皆さん今まで以上に創意・工夫を行うことで「TEAM KANAGAWA」の溶接レベルがさらに上がることを期待しています。

「神奈川県高校生溶接コンクール」では、昨年より課題をN-2Fに変更しています。また、全国工業高等学校長協会が主催する「高校生ものづくりコンテスト」の溶接競技が来年、エキシビションとして開催される予定です。高校生のコンクールはまさに「変化」の真っ只中にいますので、神奈川県溶接協会としても、この「変化」に乗り遅れないようにし、まず溶接を「楽しい」としてもらい、最終的に溶接を「好き」という高校生を一人でも増やしていきたいと思っておりますので、皆さまのご協力をお願いします。

毎年実施している「講演会・見学会」も継続して実施していきます。「講演会」は11月に新たなプログラムで実施する予定ですので、皆さまの積極的な参加をお待ちしています。「講演会・見学会」をより良いものにしていくため、皆さまのご意見をお願いします。

全国的な動向として各種手続きのWEB化が日本溶接協会でも検討されています。WEB化は時代の流れですので、会員の皆さまが、スムーズにWEB化に移行できるように当協会も対応していきますので、皆さまのご協力をお願いします。

溶接・接合技術は「ものづくり」を支える基盤技術です。「ものづくり」を支える溶接・接合技術は「人を幸せにする」ものであると確信しております。そのために神奈川県溶接協会の会員の皆さまとの交流を深め、神奈川県産業の活性化に寄与していく所存ですので、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、宜しくお願いします。



平野 新会長

平成31年度（第62回）神奈川県溶接技術コンクール 表彰式開催

平成31年度(第62回)神奈川県溶接技術コンクール(被覆アーク溶接の部及び炭酸ガスアーク溶接の部)は、神奈川県及び(一社)神奈川県溶接協会共催により去る2月1日(金)開催されましたが、その表彰式が5月24日(金)に(一財)日本溶接技術センターに於いて行われました。参加者33名(被覆アーク溶接10名・炭酸ガスアーク溶接23名)のうち、優秀賞7名(760点以上/満点800点)優良賞16名(720点以上)が受賞しました。参加者の7割が90%以上の得点を獲得し、激戦区神奈川を象徴する大会となりました。(入賞者氏名・企業名につきましては、前号にて発表、掲載)

表彰式では、主催者である神奈川県を代表して産業労働局産業部産業振興課長山崎博様より入賞者へのお祝いの言葉とともに、ものづくり、産業の中核を担う神奈川県における技術の向上を期待する旨のお言葉をいただき、県知事賞の授与が行われました。審査委員長の神奈川県立産業技術総合研究所の岸本幸宏副理事長より今年度の審査項目で新たに採用された競技時間短縮による時間超過の減点と新課題となる来年度に向けての注意点などが説明されました。東部地区検定委員会からは福永和義副委員長にご出席いただき、あらためて神奈川県選手の技量の高さに賞賛のお言葉をいただき、検定委員長賞が授与されました。

その後の懇親会では、ご来賓の方々をはじめ入賞選手・会社関係者・協会役員その他、昨年度と同様に弊協会の主にOBで構成される溶協交友会の会員会社関係者、諸先輩方の参加もあり、企業の枠や年齢の壁を超え、活気あふれる表彰式となりました。最後にここ数年恒例となっている、神奈川県代表選手による全国大会へ向けての決意が披露されました。代表選手4名のうち3名は全国競技会経験者でもあり、大いに期待がもてる今年度も「TEAM KANAGAWA」の力を存分に発揮してもらいたいと、出席者からも熱いエールが送られました。

尚 今年度の第65回全国溶接技術競技会は、11月17日(日)沖縄県中頭郡北谷町のポリテクセンター沖縄で開催されます。各部門、それぞれ上位2名の方々が、神奈川県代表として出場します。例年は10月に開催される全国競技会ですが、開催地沖縄の台風シーズンを避けるため11月開催となっています。



優勝した2選手 比嘉さん 中神さん



挨拶をされる山崎課長

被覆アーク溶接の部

団体賞 東芝エネキ・システムズ(株) 京浜事業所

神奈川県代表選手

個人賞 優勝 中神 貴紘 東芝エネキ・システムズ(株) 京浜事業所
2位 馬原 涼太 東芝エネキ・システムズ(株) 京浜事業所

炭酸ガスアーク溶接の部

団体賞 (株)IHI横浜工場

神奈川県代表選手

個人賞 優勝 比嘉 大貴 (株)IHI横浜工場
2位 藤田 智大 富士電機(株)

上記の入賞者には、神奈川県知事賞の他に(一社)神奈川県溶接協会会長賞、(一社)日本溶接協会東部地区溶接技術検定委員長賞、また、優勝者には他に産報出版(株)賞が、贈られました。

2020年度（第63回）神奈川県溶接技術コンクール 開催のお知らせ

2020年2月28日(金)(一財)日本溶接技術センターにおいて、第63回神奈川県溶接技術コンクールが下記の通り開催されます。このコンクールでは、2020年度の全国溶接技術競技会の課題が大きく変更されたため、その内容に合わせ要綱が大きく変更となっています。課題の変更は、およそ5年に一回行われ、その初年度はある意味、誰にでも大きなチャンスがある年と言われています。日頃の腕前を試す良い機会となるかと思えます。多くの方々のご応募をお待ちいたしております。

なお、2020年度の全国競技会は、三重県で開催される予定です。競技実施要領ご希望の方は(一社)神奈川県溶接協会までお問い合わせください。また、ホームページにも要領、申込書を掲載しています。

ホームページアドレス <http://www.jwes-kanagawa.jp>

- ・主催 神奈川県・一般社団法人神奈川県溶接協会
- ・開催期日 2020年2月28日(金) (申込締切日 2019年12月20日)
- ・会場 (一財)日本溶接技術センター
- ・参加資格 県内の溶接技術者で、各事業所から推薦された者 又は 県内在住又は在勤の個人
- ・競技課題 全国溶接技術コンクール課題と同様
 - *主な変更点 競技時間の短縮
 - 邪魔板の取り付け位置の変更
 - 溶接姿勢の変更

2018年度（第64回）全国溶接技術競技会 表彰式開催

去る6月12日（水）東京お茶の水にあるホテル東京ガーデンパレスにおいて、昨年10月山口県のポリテクセンター山口で開催された第64回全国溶接技術競技会の表彰式が挙行されました。神奈川県代表選手は、被覆アーク溶接の部において特別優秀賞（2位）を受賞した喜屋武秀人さん（㈱IHI）をはじめ、優秀賞（5位）の馬原涼太さん（東芝エネルギーシステムズ㈱京浜事業所）、炭酸ガスアーク溶接の部で優秀賞（10位）を受賞した東迎晋太郎さん（住友重機械マリンエンジニアリング㈱）が出席しました。



志賀啓介氏



ご出席した奥様



東迎さん 喜屋武さん 馬原さん

■日本溶接協会 貢献賞 受賞■

全国競技会表彰式と同日に開催された一般社団法人日本溶接協会総会において、前会長の志賀啓介氏に貢献賞が授与されました。この賞は、わが国の溶接界に多大な貢献があった人物に授与される賞で、1970年より毎年顕彰されているものです。

レイズネクスト㈱（前新興プランテック㈱）執行役員でもある志賀氏は、2016年に当協会と同時に東部地区溶接協会連絡会の会長に就任され、2017年度㈱IHI横浜工場にて開催された第63回全国溶接技術競技会の大会実行委員長として、陣頭指揮を執り、大会を成功裏に収めました。また高校生の溶接研修会の強化などその技術の向上へも多大なる功績を残されました。受賞日当日はご多忙のため、ご本人の代理として奥様のご出席なさいました。

2019年度（第10回）関東甲信越高校生溶接コンクール 結果

2019年4月27日（土）、第10回関東甲信越高校生溶接コンクールが藤沢市の神鋼溶接サービス㈱を会場として行われました。

平成も残すところあと僅かとなったこの日、記念すべき第10回目も友人の応援を背に緊張感も漂う中、白熱したコンクールとなりました。1回目より続いていた課題A-2F相当から今回よりN-2F相当へ変更されましたが、課題が難しすぎるのでは・・・という大人の心配をあっさりと覆すような素晴らしい出来栄の数々に、感嘆の声が上がっていました。審査方法は従来通り、溶接作業における実技審査及び指定された棒継ぎ・清掃状況等に加え、最終ビードの外観評価および超音波深傷試験（UT）が実施され、それらの項目の総合評価得点により最終順位が決定されました。表彰式も同日、同会場内で開催されました。

優勝は、群馬県代表伊勢崎工業高校の小谷野琉維選手でした。神奈川県代表の大塚公輝選手（神奈川県立向の岡工業高校）は、第4位、同じく代表の高橋一輝選手（同校）は第6位と共に優秀賞を受賞しました。県代表選手の2名は、春休みの一週間（一財）日本溶接技術センターのご協力を得て練習に通い、力をつけ自信をもってコンクールに臨みました。また第4位の大塚さんは、8月に愛媛県新居浜市で開催された第3回全国高校生溶接技術競技会の半自動溶接の部の代表選手に選出され、短い練習時間の中、半自動溶接を習得し、全国の舞台でその力を発揮しました。



関東甲信越大会へ出場の各都県代表選手

高校生による溶接研修会及び溶接コンクールについて

◎2019年度（第11回）神奈川県高校生溶接コンクールは、下記要領で開催します。

- ・主 催：（一社）神奈川県溶接協会 ・後 援：神奈川県工業高等学校校長会
 - ・協 力：（一財）日本溶接技術センター
 - ・期 日：2019年11月23日（土） ・会 場：（一財）日本溶接技術センター
 - ・競技課題：溶接評価試験のN-2F相当（板厚9mm裏当てなし 下向き）
 - ・判定方法：外観判定・X線試験判定 ・参 加 者：神奈川県内の工業高等学校生徒 参加者数：未定
- このコンクールで上位2名の方を、2020年度（第11回）関東甲信越高校生コンクールに神奈川県代表として推薦します。

神奈川県工業高等学校教師・生徒研修について

（一社）神奈川県溶接協会と（一財）日本溶接技術センターは共同で、神奈川県教科研究会工業部会が主催する神奈川県教科研究会工業部会 機械専門部 夏季研修会「アーク溶接技能講習」を7月30～8月1日（3日間）開催しました。これは高等学校教師・生徒に対する溶接技能の研修会です。9校から先生、生徒24名が参加しました。

今年も神奈川県職業能力開発協会のご協力のもと、溶接技術マイスターの佐藤丹次先生をお迎えして行われました。今年は1年生の参加者も多く、溶接自体に慣れない生徒などには別メニューを用意するなどし、先生も生徒も皆さん大変熱心に取り組んでいました。尚 8月2日には（一財）日本溶接技術センターで『非破壊検査セミナー』を開催しました。前日の講習で溶接した参加者各自の作品に蛍光探傷試験及びX線透過試験の処置を施し、専門家の解説を受けながら溶接部の観察をしました。

2019年度・2020年度 新役員のお知らせ

役職	氏名	所 属	役職	氏名	所 属
会 長	平野 隆	(株)IIH横浜工場	副会長	堀切 幸夫	東芝プラントシステム(株)
副会長	尾茂田 剛	(株)大倉製作所	副会長	大菱池 学	三菱重工業(株)
理 事	黒川 剛志	(一財)日本溶接技術センター	理 事	村山 雅智	JFEエンジニアリング(株)
理 事	植松 秀明	住友重機械マリンエンジニアリング(株)	理 事	石井二三夫	神奈川県鉄構業協同組合
理 事	福永 修次	富士電機(株)	理 事	横島 聖一	神鋼溶接サービス(株)
理 事	志賀 啓介	レイズネクスト(株)	理 事	勝間田佑五	(株)福岡鉄工所
監 事	牧野 吉延	東芝エネルギーシステムズ(株)	理 事	神田 豊	(株)総合車両製作所
			監 事	吉野 慎吾	(株)タセト

講演会開催のお知らせ

毎年ご好評をいただいている講演会を今年度は下記の要領で開催いたします。なかなか一度に会することがない多彩な講師陣をお迎えして、日ごろの疑問点などから多岐にわたって知識を身につけていただける良い機会になると確信いたします。皆様のご参加をお待ちいたしております。詳細につきましては、(一社)神奈川県溶接協会へお問合せ下さい。

またホームページにも詳細、申込書を掲載しています。

ホームページアドレス <http://www.jwes-kanagawa.jp>

- ・講演内容：「溶接欠陥・検出・補修技術」
- ・開催日時：2019年11月13日(水) 9：30～17：00
- ・開催場所：(一財)日本溶接技術センター 5階講堂

ミャンマー国におけるJICA 電動自転車製作 溶接技術指導について



ミャンマーでの研修生の皆さんと集合写真
日本の溶接技術を世界へ「ミャンマーへとどけよ」

この度JICA「独立行政法人国際協力機構」と「(一社)日本ミャンマー協会」より溶接技術指導者の派遣要請があり、協会職員の槻館氏と香川氏がこの夏ミャンマーへ溶接技術指導に赴きました。これは、JICA発注の中小企業海外展開支援事業「ミャンマー国電動アシスト自転車にかかる普及・実証事業」において現地での溶接作業指導者の育成が必要となり、当協会ホームページの溶接実技講習指導者派遣の案内を目にした川崎市商工会議所より、是非との要請を5月に受け実現したものです。

以下、香川氏からの報告です。7月の1回目渡航で、現状を把握し不足している用品(タンクステン等)を準備し、2回目渡航は8月下旬より9月中旬の約2週間の日程で行われました。講習会参加者は14名(内女性2名)、平均年齢は23歳と若さあふれるメンバーでした。場所は、首都ヤンゴンにある溶接訓練センター。槻館氏の作成したプログラムに沿って学科、実技講習を行い、将来自転車のフレーム等のTIG溶接が出来ることを目的としました。しかし、現地にはTIG溶接ができるブースが4台のみ、一日一人あたり一時間程度の実習しかできず、時折停電などもあり、さらにミャンマーは雨季にあたり降水量が年間の90%と高湿度の中、訓練所には扇風機は1台のみで、暑さとの闘いでした。そのような環境の中、TIG溶接がほぼ初めての受講者は、熱心に練習に取り組み、最終日には練習の成果のビードを製作、提出し、全員でお互いのビードの評価、確認をしあい、うまくいかなかったメンバーも含め、皆さん笑顔で終えることができました。受講者の一人一人が短い時間の中、真剣に練習に取り組んだ結果が出たことは、指導者としても大きな喜びとなりました。また、溶接の難しさ、そして楽しさを実感してもらえたことが、大きな成果でした。今回の実習プログラムは、槻館氏の長年の溶接指導者としての経験が存分に発揮され、私も40年の溶接経験がお役に立ったことをうれしく思っています。現地での通訳の方もベテラン2名(女性・男性)で行われ、訓練センターの職員皆様にも協力いただき、また、(一社)日本ミャンマー協会 ミャンマー総合研究所上級主任研究員の宮野弘之氏の全面的協力のもと無事に終了することができ、感謝しております。最後に、帰国日ヤンゴン空港にて今回のメンバーの皆さんの健康と幸を祈り、ミャンマーの発展を願い合掌し空港を後にしました。無事に帰国できたのも、家族の協力、他の事務局職員の協力があったればこそ実現できたことと、感謝しております。ありがとうございました。



*当協会では、この他、群馬県など、企業様へ直接赴き、ベテラン溶接技術者による実技指導を行っており、大変ご好評をいただいております。

日程、料金等の詳細については、お気軽にお電話等でお問合せください。